

町長の
まち・ひと・しごと
魅力発信

～ 事業所訪問 vol.14 ～

「垣塚精機株式会社」

町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見て、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を連載します。



機械の製造工程の説明を受ける森町長

町長の見て・聞いて・話して

第14回の事業所訪問は、2月14日に垣塚精機株式会社を訪問し、垣塚正男社長にお話を伺いました。

垣塚精機株式会社は、昭和47年(1972年)秩父市上吉田において垣塚製作所を創業し、機械部品類の受託加工を開始しました。事業拡大に伴い、昭和60年(1985年)に現小鹿野町下小鹿野に工場を新設されました。

当初は時計の内製機器の部品製造等を行っていましたが、昭和61年(1986年)よりスリッターマシンの研究開発及び製造販売を開始しました。

独自に開発した「スリッターマシン」は高い技術力があるからこそ完成したもので、大企業をも凌駕する工作機械となっています。

スリッター加工とは、金属、紙、フィルムなどの素材をテープ状に細長く裁断して巻き取る加工方法です。

平成元年、独自開発の「HTC巻取りシステム」を採用し、巻取径の差による緩みや垂れを解消し、一定張力の巻取りを可能にした高精度のスリッターマシンを開発しました。

金属の表面を手作業で削り、平らにする「きさげ」という熟練による職人の技術が強みとなり、さらに貴社ならではの「切断する技術」と「巻き取る技術」で他社に負けない、より精密なスリッターマシンが造られていました。



垣塚正男会長(左)と垣塚正行社長(右)

この究極のスリッターマシンの開発、そして成功に至るまでには社長自らの長年に亘る、「できるまでやれば必ずできる」という信念のもとに生まれたものでした。苦難なことにも立ち

向かい、人との出会いを大切にし、仕事を楽しみながら開発に取り組み、決して諦めない探究心があるからこそ、「世界一の機械をつくる」ものづくり企業として成功した証であると確信しました。

わが社の主力製品

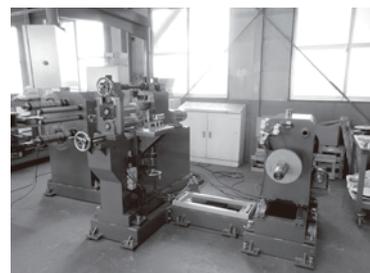
当社独自開発のHTC巻取りシステムを搭載した高精度スリッターマシン及び関連装置の設計・製造・販売・保守のすべてを手掛けておりますので、お客様のニーズに最適なスリッターマシンをご提案することで信頼を得ております。

ここに自信あり

平成30年(2018年)には、業界初の帯状の炭素繊維を連続して切断できるスリッターマシンを開発しました。これにより、細切りした炭素繊維をよって縦と横方向に編めば、様々な部材を簡単に加工できるようになり、コストも大幅に削減でき、自動車や建材などのさらなる用途拡大に貢献するため、鋭意努力をしております。



高精度のスリッターマシン(上・下)



会社概要

代表者 代表取締役会長 垣塚正男
代表取締役社長 垣塚正行(4月より就任)

従業員数 11名

創業 1972年

所在地 小鹿野町下小鹿野875

電話 0494-75-3310